

平成29年度第1回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 平成29年6月19日（月）
午後3時から午後4時30分
場 所 市民総合福祉会館第1談話室

出席委員 吉田一雄委員、縄谷尚志委員、池谷道雄委員、薄葉良委員、
地曳文利委員、平田辰雄委員、岩崎正人委員、稲井陽一委員、
鎌田哲也委員、齋藤和利委員、若菜貴委員、櫻井隆雄委員、
鈴木清委員

1 開 会

2 まなび支援センター所長挨拶

3 協議

- ①平成29年度まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について
- ②報告・意見交換

〔事務局から説明〕

本日はご多用中のところご出席いただきありがとうございます。木更津市まなび支援センターで青少年を担当しております竹内と申します。よろしく願いいたします。本協議会の委員の皆様におかれましては、今年度委嘱2年目となりますが、異動等によりまして、新しく委員になられた方が3名いらっしゃいます。任期は木更津市まなび支援センターの設置及び管理に関する条例第5条第3項によりまして、前任者の残任期間、平成30年5月31日までとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。会に先立ちまして、ここで一つ皆様にご承知願いたいことがあります。本協議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公表されておりますが、本日の傍聴人はございません。また、会議録は木更津市のホームページ上で公開されることとなります。会議中は録音機により会議を録音いたしますのでご承知ください。

それでは只今から、平成29年度第1回木更津市青少年指導関係運営協議会を開催いたします。会議開催にあたり委員14名のうち、12名の出席により会議が成立いたしますことをご報告いたします。それでは、これより協議に入りたいと思います。吉田会長に座長をお任せいたします。よろしくお願いいたします。

〈吉田会長〉

それでは、協議にはいります。

協議事項の①平成29年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について、事務局説明願います。

〈齊藤所長〉

平成29年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について説明

〈吉田会長〉

只今の説明に関しまして、ご質問ご意見等ございますでしょうか。

〈櫻井委員〉

こども110番の家連絡会ということができましたので、これは木P連（木更津市PTA連絡協議会）のなかでも少し前の組織ということでして、昨年度、まなび支援センターの篠田所長から、活動資金としてプールされていた残金をお預かりしておりましたが、市内の各学校に有益なもので、各学校平等なものをそのお金で買って配るというかたちにしたいということが前回の本部役員会で決まりましたのでご報告させていただきます。それと、もう一点、これはお願いになるんですが、こども110番の家の看板ですが、今年度アンケートをとったところ、各地区や各学校がそれぞれ作製しているということで、生徒数が少ない学校はPTAの活動資金があまりないので、近隣4市や千葉県内を調べてみたんですが、市役所のほうで学校教育課なり生涯学習課なりがまとめて配っているらしいということで、前回の理事会の際に、生涯学習課に窓口を用意してほしいとお願いいたしました。

〈吉田会長〉

事務局お願いします。

〈事務局〉

こども110番の家連絡会は木P連さんの当時の会長、副会長の方が中心となって、当時市内にあるこども110番の家の看板が経年劣化しているのですが、この際、各団体でまちまちであったデザインを木P連のほうで取りまとめて一括で作らしましょうと、ついては、木更津市まなび支援センターが窓口になっていただきたい、ということで、サポート事務局としてやらせていただいたという経緯がございまして、当時、まとめて作った看板の予算の時の金額と実際に購入した時の金額との差金はどうしても発生してしまうということで、各学校さん、各PTAさん、それぞれの差金が微々たるものということで返金するのではなく、それを一回集めてプールしたものを何かで使おうというかたちで残っていた、というものがあまして、この度、木P連さんに寄付金というかたちではありますが、お返ししたということでございます。まなび支援センターといたしましては、サポート事務局として、引き続き支援していきたいと考えておりますので、何かありましたらご相談いただくなりしていただければと思っております。看板につきましては、それぞれの学校さんであったり、PTAさんであったり、まちまちですが、木P連さんは木P連さんということで取りまとめて作っていただくのは、それはそれでよろしいのかなと思います。

〈吉田会長〉

他にありますか。

〈岩崎委員〉

青色回転等装着車両の活動時間帯というのはどうなっていますでしょうか。

〈吉田会長〉

事務局お願いします。

〈事務局〉

基本的に、毎週火曜日と木曜日、午後3時から1時間程度、児童生徒の下校時間に合わせるようなかたちで実施しております。下校が早い時間の際は、極力それに合わせるよう実施したりですとか、安心安全メールで不審者情報が流れた際は、その地区を重点的に実施したりですとか、そういったかたちでパトロールをしております。市内4か所に分けて、週2回それぞれ1時間程度パトロールしているのが現状でございます。

〈吉田会長〉

最近議論になるのは、子ども達の問題というよりも親の問題なのではないか、ということが多くでてきていまして、もう一步踏み込まないと、労力のかかる末端のところだけの活動になってしまうような気がしてしまいます。勿論、啓発活動も効果がでているところではあります。それと、少年という言い方と青少年という言い方は少し違うという印象が私にはありますが、今の大学生は子どもですよね。そういう感覚は日々あります。10年後20年後に彼等が日本を背負っていく訳ですよね。小学校中学校では所在がはっきりしていますのでコントロールできるというのがあるかと思えます。それ以上になりますと、突出して目立った子達を指導するようなかたちになっていきますが、潜在的にはもっといるんだろうし、親はどうなんだろうというのがあります。

他にご意見がなければ議題の2番に進みたいと思います。

それぞれの委員のお立場からご発言いただければと思います。

〈齋藤委員〉

パトロールをしても子どもがいないということで子どもの居場所づくりをしていきましょう、というように方向転換を少ししたほうがいいのでは、というのがあります。子ども食堂というのが全国で千箇所ほど、千葉県では北部が中心ですが10数箇所ほどありますが、木更津市でつくるとするとどうしたらいいのか、クリアしなければいけないことはどんなことがあるのか、市としてどの様に考えていますでしょうか。

〈地曳委員〉

市のほうですべてを決めてしまうというよりも、地域地域によって事情が異なっているかと思えますので、そういった事情を広くご理解いただいている地域の指導的立場の方々で話し合いをしていただくなかで、その地域に合ったもの、木更津に合ったやり方というものを見つけていただくということを考えておきまして、市のほうでこうしたほうがいい、こうしたしなければいけない、ということを決めるということは今のところ考えておりません。それともう一つ、子どもの学習機会を与えるという取組については市のほうでスタートさせるということで、4月から自立支援課という課が福祉部内に発足いたしまして、そのの

課のほうで取り組みを進めることとなっております。場所は、西口の両総通運ビルの1階を市が借り受けておりますので、その場所で実施しようということになっております。

〈吉田会長〉

貧困家庭の子どもさん達の学習が滞って、進学とか就職の時に差がついて、というスパイラルになってきているというので、そういった子どもさん達の学習支援をしようという働きを昨年からトライアルで木更津市はスタートしています。今年からは予算もついて、清和大学の学生等が勉強の面倒をみてというようなかたちで、中学校であるとか公民館であるとかを使おうというものです。子ども達のモチベーション、学習習慣にプラスになればと思います。

〈地曳委員〉

一番問題になるのは個人情報ということになりますので、今回、試験的に学習支援の場を立ち上げる時のやり方として、生徒さん達の呼び方を実名ではなく、ニックネームで呼び合うという方法をとって、教えていただく学生さんがどこそこの誰というのを把握しない、そのなかでお互いのコミュニケーションをとりながら学習のお手伝いをする、そういうやり方をしました。今後もそういったやり方が一つの方法ではないかと市役所としては考えております。

〈縄谷委員〉

子どもの問題ではなくて大人の問題だというキーワードがあって、大学生が子どもという話がでましたが、今、昔では考えられないですが、部活動に親がたくさんみにくるんですね。で、送り迎えをする訳です。中学校の場合、どれだけ自立に向けて教育していくか、というところがあるんですが、自立していこうというところで過保護ですよ。逆に、親が全然みていない家庭、みていない間に子どもが色々なことをしている。親の部分を何とかしていかなければいけない、この辺りを色々な手で考えていかないといけないのかな、と今思っています。

〈吉田会長〉

子ども達は反抗期とか向かえないんですかね。

〈縄谷委員〉

以前のような非行的な生徒は少なくなりましたが、その分マイナスのエネルギーで内に籠って学校にこないですとか、何をやってもエネルギーがちょっと足りない、活気がないな、ということを感じます。

〈吉田会長〉

大人が居場所を作るんじゃなくて、昔は子どもが居場所を自分で作っていましたよね。今は、普段どこで遊んでいるのかと聞くと、友達の家で背中合わせでスマホでゲームをしているって言うんですね、これで友達の家で遊んでいるって言えるんですかねという感じがありますね。放置されてる子ども達はどうしたらいいですかね。

〈縄谷委員〉

学校でよくあるパターンは、そういった子は寂しきで何かをやってしまう。何かをやってしまった時に保健室などで、実はこれこれこうなんだということを話し始める。それで、こちらから保護者にお子さんが悩んでいますよと、お互いで話し合いの機会を作ってあげる、子どもが言えば、それが引き金になって親が言うというケースもあります。

〈池谷委員〉

保護者が子どもの味方なんです。悪いことは悪いのにそれを認めない。それをカバーしようとする。生徒指導したくても、まずは保護者の指導からなんです。子どものほうが逆にわかっている場合があります。保護者が壁になっていない。家で壁にならないから、外に行って学校で職員が壁にならなかつたら、一体誰が壁になってくれるのか。壁になる者がいないから、子ども達はどんどん駄目になっていくんじゃないかなと私は思っています。子どもがかわいそうです。どこに行っても壁がない。昔は、親が壁になって、近所の怖いおじさんおばさんが壁になって、学校に行ったら怖い先生が壁になって。今は、大人しく落ち着いています。それは逆に、静かにしているだけであって、ネット社会に入り込んでしまっていますので、陰湿ないじめが起きている。学校に行ったら静かにしていればいい、先生の話の聞いている振りをしていればいい、裏でやっていることは教員には見えないですね。それと、千葉県教育委員会では県下5校の夜間定時制で給食の廃止を検討していて、試行的廃止ということで本校の給食が今止められていまして、給食の代わりに学校で夕食を用意していますが、その代金を払えない家庭がたくさんあります。そのお金を払うんだったらコンビニでおにぎり一個買ってお茶一本飲めばいいや、と言って食べてきてしまう。補助を出しますよと言っても希望者はゼロです。それでも払えない家庭がある。それよりも安い金額で済ませ、食べてもおにぎり一個、食べない子、家に帰って食べる子、それが現状です。

〈薄葉委員〉

SNSの問題もあると思うんですが、生徒指導講話でネットパトロール関係の講師の先生を呼んで、全校生徒にスマートフォンの正しい使い方とか、非常に危険な部分もあるとか、今、ネットのなかでのいじめというのは勿論なんですけども、主に、自分が危険にさらされているということをきちんと理解していないという部分の話をさせていただきました。制服を着たままですとか、学校名ですとか、クラス名ですとか、名前ですとか、今の子ども達は、簡単にどこの誰かがわかってしまうような使い方を平気でやってしまう。当然、犯罪に巻き込まれる危険性が高くなるというような例を交えながら、ご講演いただきました。スマホに関しては自分は知識があり知ってるんだ、と勘違いしている生徒が多くて、こういうルールをしっかりと守っていかないと自分自身が危険な目に合うんだよ、スマホってというのは犯罪にかかわる部分があるんだよ、自分自身をしっかりと守らないといけないよ、ということをもっともっとやっていかないと、いつ何時犯罪に巻き込まれてもおかしくない。小学校からスマホを持っている時代ですが、意外に、本当の使い方を知らないんですね。

それと、ルール作りという話があって、ひとつの例で、ある地域の小学校くらいの子ども達を対象で、夜9時以降は絶対にLINEをしてはいけないというルールを作った地域があって、ルールを守ることによって子ども同士嫌な思いをしなくなったという話がありました。勉強したいけどLINEにでない仲間外れにされてしまうというのが排除されて、逆に、学校に行って色々な話を直接するようになったということです。大人が協力しないとできないことですが。

〈齊藤所長〉

保護者の方から、学校のほうでそういったルールを決めてくれ、という話がありますが、学校のルールで学校としてやりますよといった時に実効性がないということで進まないということがあります。学校によっては、PTAで申し合わせをしてやっているところもあるとは聞いていますが。

〈櫻井委員〉

スマートフォンの所持調査をしたところ、小学校の6年生で6割5分、中学校3年生で8割持ってるんですね。フィルタリングを掛けても子どもは簡単にパスワードを破ってしまう。子どものほうがよく知っているというのがありますので、各戸の家庭が夜8時に寝なさいと言っても、誰々ちゃんの家は夜10時だよ、といったように、各家庭が違いますので統一するのは難しいですね。親のモラルの低下というのは感じますよね。ルールが守れている部分と守られていない部分というのがあると思います。

〈吉田会長〉

昔の子ども達は説明されなくても、ものの善悪がわかっていましたよね。先程のスマホのルール作りの話ですが、地域とか学校とかの話ですか、それとも市全体で取り組んでいたほうがいいんですか、もし、そういうことでしたら教育委員会のほうでも取り上げたいと思います。何とか知恵みたいなものを授けられる教育ができないものかと思います。体験ですとか。

〈鈴木委員〉

昨日一昨日とデイキャンプをやったんですが、延べ350人が参加したんですが、夫婦できているのと、5、6年生より1、2年生、低学年が多かったですね。3、4年前から市内の小学校に、お父さんの良いところを見せよう、というのをPRしていたんですが、19の小学校のうち15の小学校からきてくれました。

〈平田委員〉

高齢者と子どもとの接点を作ってあげるとい取組が増えていきます。子ども達とコミュニケーションが取れるということで、最初は少なかったんですが、希望者が増えて、楽しみにしていますね。子どもと接することで認知症などが予防できればというのもあります。

〈岩崎委員〉

非行少年というと木更津警察署管内ですと14歳から16歳が中心で、犯罪の種別ですと、万引きですとか、オートバイ盗や自転車盗ですとか、最近では器物損壊などが発生し

ていますが、ごく一部の少年が連続して犯行に加担しているという現状です。そのなかで特徴的なことといえば、子ども達の間での連絡手段として、スマートフォンを使ったLINEなんですね。LINEを通じて仲間と連絡を取り合う。それと、例えば、家庭環境が親とうまくいかないということで家出を思い立った少年少女が、LINEを通じて、ネットの中に家出の掲示板があるということで、そこを使って自分の宿泊場所を確保する。そこへ女の子を狙った大人がきて対価を払う。子ども達もそれを知ったうえで、それを、また、情報として子ども達の間で交換する。相談で言うと、SNS上で誹謗中傷されたですとか、アカウントを盗まれてしまったですとか、コミュニケーションツールを使ったものが多いですね。

〈吉田会長〉

明らかに危険をわかっているがらしているということは、善悪の判断ができていないということですかね。

〈岩崎委員〉

子どもからすると、今の環境を脱したいということで、悪いという意識はなく、割り切っていますね。親が子どもの前で夫婦喧嘩をすとか、児童虐待にあたるような環境から脱け出したいだけだと。

〈齋藤委員〉

以前も話をさせてもらいましたが、子どもの前ではとにかくお父さんを褒めましょう、というのがありましたよね。そうすることで家庭環境が変わり、子どもが変わる、と。

〈稲井委員〉

裁判所にくる子達に、今後、将来、どういった進路を考えているのかということを知ると、仕事の夢を持っている子がいるんですね。じゃあ、そのためには何をしたらいいかという、高校卒業が必要になってくる。学習支援があると大きいですね。何か意欲を持たせ続ける、効果を発揮してくれるものがあると続くのかなと思います。

〈鎌田委員〉

大人のボランティア活動をみせるということはいいい刺激になっていると思います。毎月のパトロールをみせることで抑止力になっているのかなと。それと、年に一度、袖ヶ浦市と木更津市の中学校を廻ってソフトバレーをするタッチヤングという活動をしています。大人と子どもが直接触れ合うことができ、また、連帯感がみられ、非常にいいですね。課題としては、そこにこない子どもさんをどう救っていくか。そういったことを活動を通して考えていかないといけないなと思っています。昔は放っておいても色々な経験を積めたわけですが、社会性を育てる活動を今まで以上に考えていかないといけない。そういった環境を少しでも創れたらと思っています。

〈吉田会長〉

大学生に聞くんですけど、家に帰っても親と話さないし、子どもが今、兄弟がいませんので、狭い範囲でしか話をしていないんですね。親も先生も友達感覚で、価値観の違う人

とはしゃべらなければいいと。ですので、そういった企画はいいことだと思います。

〈若菜委員〉

相談員の活動対象は、小学生と中学生ですが、実際触れ合うのは小学生が多いんですが、行事としてスマホなどの知識というものもありますが、体験型を取り入れていかなければいけないなと思いますね。

〈櫻井委員〉

学級崩壊やいじめの問題で活躍され、身寄りのない子ども達や親から虐待を受けた子ども達が集まる児童養護施設をやっている先生に研修の講師をしていただきましたが、PTAとして教育の流れを話せるような機会というのを学校でPTAとしてやっていったらどうでしょうというのがありまして、また、親が変わることで学校も変わる、上手な叱り方をしてくださいと。大人は全て教師たれ、と。大人が成長しきれてないというのは感じますね。

〈鈴木委員〉

今の木更津市の子ども会の現状ですが、会員が7,000程で加入者が15パーセントで1,000程。今、市子連（木更津市子ども会育成連絡協議会）に加入している町内会は14町内会で、活動するのにも限られてしまっていますが、行事としては、体験実習を沢山やろうと思っています。できるだけ相手の身になった思いやりの輪を広げようということで、子ども達の健全育成に繋がる活動をしています。

〈吉田会長〉

本日は実に多くの話を聞くことができたと感謝しております。市政全般に生かせるようなアイデアもあったかと思いますので、考えさせていただきたいと思います。

時間も時間ですので、事務局にお返しいたします。

〈事務局〉

委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

次回、平成29年度第2回の運営協議会は、平成29年10月12日木曜日、場所は同じ福祉会館を予定しております。第3回は平成30年2月19日月曜日を予定しております。よろしくお願いいたします。それぞれの委員のお立場で今後とも青少年健全育成のためにご尽力いただければ幸いです。当センターの運営にご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。本日の会を閉じたいと思います。ご協力ありがとうございました。